



誰も見ていない時の「私」が 学校を作る

今年も残すところあとわずか…

1年間、変化の激しい環境の中で、日々の業務に真摯に向き合っていただき、
心より感謝いたします。

“ Integrity is doing the right thing, even when no one is watching. ”

この言葉は、『ナルニア国物語』などで知られるイギリスの作家、C.S. ルイスの言葉で、
「誠実さとは、誰も見ていないところで、正しいことをすることだ」という意味になります。
なぜ、今この言葉なのか…？ 年末の慌ただしさや、開放的な気分になる年始。「職場の同僚の目が届かない場所・時間」こそ、私たちの「誠実さ」が試される機会だからです。

「コンプライアンス」と聞くと、誰かに怒られないために守るものと思われがちです。しかし、本来はそうではありません。誰かが見ているから守るのではなく、**みなさん自身が「自分はプロフェッショナルである」と胸を張るために、「正しい選択をすること」**。それが、**自分自身を守り、ひいては大切な仲間や家族を守る**ことに繋がります。

3つの誠実さ

「誰も見ていない時」こそ、以下の行動ができているか、自分の心に問いかけてみてください。

1 情報に対する誠実さ

- PC データの開きっぱなしや書類やパソコンを持ったまま、お酒の席への参加はありませんか？
【Action】 紛失事故は「魔が差した」一瞬に起きます。情報の持ち出しルールを今一度確認しましょう。

2 仲間に対する誠実さ

- SNS 等で、同僚のプライバシーや仕事の愚痴を安易に発信していませんか？
【Action】 どんな時でも「相手へのリスペクト」を忘れないこと、それが大人のマナーです。

3 自分自身に対する誠実さ

- 無理をして体調を崩していませんか？悩みやミスを一人で抱え込んでいませんか？
【Action】 困ったときは声を上げてください。自分を大切にすることも、重要な責任の一つです。

見えない努力に、「ありがとう」

掲示物や作品に気を配り手直ししてくれる先生や依頼された教材準備を期日までに確実に仕上げてくれる先生。
常に玄関やホールに彩り豊かな花を飾ってくれる先生に主要業務外でも子どもたちと外で遊んでくれる先生。予定外の支出も予算を考えながら手配してくれる職員や既存の献立にひと手間かけて給食を提供してくれる職員…。
誰も見ていないところでの、そうした小さな気遣いの積み重ねが、私たちの職場の「働きやすさ」を作っているのだと改めて気づかされました。
ルールを守ることは、地味で目立たないことかもしれませんが、その「誰も見ていないところでの誠実な行動」にこそ、私たち全員が支えられています。

“ It’s not how much we give , but how much love we put in the giving. ”
by Mother Teresa

一年間、本当にお疲れ様でした。胸を張って、良いお年をお迎えください。